



被災者に自然の癒やしを

三島のNPO 石川の親子ら招きツアー

能登半島地震の被災者に富士山麓の自然と触れ合ってもらおうツアー

が、23日から2泊3日の日程で三島市などであった。能登の親子ら43人が、源兵衛川(同市)で水遊びをするなどして疲れた心を癒やした。

ツアーを企画したのは、自然環境の改善に取り組むNPO法人「グラウンドワーク三島」。同法人の渡辺豊博専務理事(73)が現在の石川県能登町で小学3～6年を過ごした縁があり、地震の被害が大きかった同町と、隣接する石川県珠洲市の小中学校に声をかけ参加者を無料で招待した。グラウンドワーク三島は、東日本大震災後にも被災地の子どもたちを三島などに無料招待したことがあ

る。

23日は柿田川湧水群(清水町)を見学し、伊豆の国市内の温泉宿で参加者同士が交流。24日は山梨県側で富士山麓を散策した後、富士山のわき水が流れ込む源兵衛川に足を入れて水遊びをした。川に入った子どもたちは「冷たい」とほしやきながら、水をかけ合ったりした。

川遊びの前には源兵衛川の歴史も伝え、一時は生活排水などで汚れた源兵衛川が市民らの活動で多くの貴重な植物や昆虫が生息するきれいな川に戻った経緯を紹介した。

珠洲市の瓶子明人さん(41)は地震で自宅が全壊し、家業の理髪店は本格的には再開できていないといい、

「ストレスはあったがリフレッシュできた。源兵衛川を知って、少ない人口の街だがみんなで力を合わせれば復興できるような気がしてきた。帰って頑張りたい」と前を向いた。

次女芽那さん(11)は「富士山が見たかった。大きくて驚いた」と喜び、芽那さんの友人の清間香菜さん(11)は「(被災地は)まだ水が出ないままだけど、わき水を見て水の大切さを知った」と話した。

渡辺専務理事は「口数が少なかった子どもたちが元気になった」と手応えを語り、「悲惨な状態から故郷の宝に再生した源兵衛川のことを知れば、被災した能登を再生していくヒントになると思う。被災者には能登の魅力を再認識して街を再生して欲しい」と願った。

ツアーは4月と7月にも計画されている。(今坂直暉)